

ユニバーサルファッション
商品の企画開発研究会

身体を包み込む新発想で
「スパイラルインナー」を
開発しています



ユニバーサルファッション商品の企画開発研究会（以下、UF 商品研究会）は、平成 13 年に設立された特定非営利活動法人ユニバーサルファッション協会と都産技研との共同研究会。ユニバーサルファッション商品を取り巻くデザインや、パターン・縫製などの技術について情報交換を行い、会員の知識と技術の向上を図ることが目的です。「カラダにやさしいポロシャツ『MiGU』」という商品の企画開発実績もあります。同研究会の代表・替地あや子 氏と、デザイン技術グループの加藤貴司 主任研究員に活動内容を聞きました。



ユニバーサルファッション
商品の企画開発研究会

代表 替地 あや子 氏



特定非営利活動法人
ユニバーサル
ファッション協会

<https://www.unifa.jp/>

TEL 03-5524-7707

アパレル業界に対する
都産技研の取り組み

都産技研では、前身である「東京都立産業技術研究所」の時代から、地場産業としてファッション産業が盛んな地域にある墨田支所が中心となり、アパレル・繊維業界への技術支援や性能評価などを行ってきました。独自にユニバーサルファッションに関する研究を行う中で、ユニバーサルファッション協会との共同事業としてスタートしたのが、現在の UF 商品研究会の活動です。

会員企業が自主的に運営し
都産技研がサポート

UF 商品研究会に参加されている方は、全 34 社 79 名。繊維製品の製造業が約 5 割を占め、素材・材料・副資材メーカーが 3 割、デザイナーやパタンナーほかが 2 割です。各自“本業”がある中で月 1 回程度のミーティングを重ね、2019 年 1 月には 200 回目を迎えるといえます。モットーは、「今までにないものを、今までにない発想でつくろう」というもの。生地メーカーの見学や、感性工学を専門とする研究者への相談なども行いながら活動しています。

活動内容は会員企業が自主的に決定して運営。都産技研は会員の技術的な課題や相談内容に応じて、技術支援や開発支援を行うほか、機器利用や評価方法に関するアドバイスなどのサポートも行っています。

開発事例 1
カラダにやさしく
動きやすいポロシャツ

UF 商品研究会での最初の製品開発事例は、リウマチや五十肩などに悩むシニア層をターゲットに設定した「カラダにやさしいポロシャツ『MiGU』」です。伸縮性のある生地を使用し、袖先下から脇を経由して裾までを 1 枚布にすることで、袖付と脇縫



独自のパターンデザイン
処理で可動域を大きくしたポロシャツ。写真のラグランタイプのほか、セットインタイプも開発した。

いによる背幅の固定が背中の中突っ張りを軽減。腕を通しやすく着脱が容易なほか、腕の可動域が広く動きやすい快適な着心地を実現しました。

この「MiGU」は、平成 20 年に京都で開催された国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD) の国際会議で初お披露目。大手スポーツ用品メーカーから引き合いがあり、「ユニバーサルファッション協会推薦商品」として商品化が実現しました。

開発事例 2
独自形状で皮膚にやさしい
「スパイラルインナー」

現在開発に取り組んでいるのは、怪我をした際に患部を守る包帯のような機能を持つ“らせん”形状の肌着「スパイラルインナー」です。生地には皮膚トラブルの軽

減が期待できる加工が施されたダイワボウノイ株式会社の「アレルキャッチャー」を採用。UF 商品研究会の会員企業でもある同社から素材提供を受け、身体をやわらかく包み込む独自のスパイラルパターンを考案し、首まわりにも同社の「アレルキャッチャーテープ」を使用しています。

また、乳幼児向けの肌着から着想を得て、縫い目は肌に触れない表側に設定。素材自体の伸縮性に加えて、縫製部分にも伸縮性に優れたウーリー糸を使用することで、着やすさを高めています。

「一般的な大人用のインナーと比べると“常識外の発想”ばかりなのですが、結果的に圧迫感のない着心地を実現できました。試作品は 20 名のモニターから着用感や肌触り、動きやすさ、着脱のしやすさなどをヒアリングし、改良を進めている段階です。まずは女性用の商品化を目指し、その後は子ども用や男性用に発展、さらには海外への告知も目標にしています」(替地氏)

多様な服飾企画に活用できる
アーカイブブックを作成

UF 商品研究会のもう一つの成果が、『ユニバーサルファッション付録ブック』です。これは、ボタンやバックルなど、ユニバーサルデザインに使用できる付属品を集めた見本帳。使い勝手なども記載しており、新たな衣服の企画開発に活かすことができます。

「世の中には、ユニバーサルファッション目的ではないパーツでも、ユニバーサルファッションに役立つものがあります。今



イメージラフと型紙を基に裁断し、手作業で縫製を行った「スパイラルインナー」の試作品。イメージが違えば型紙から練り直すという試行錯誤が繰り返された。

後は仕入れ元などを書き加えることで利便性を高め、福祉や服飾関係の教育機関への情報提供や、オンラインで閲覧可能なくみづくりも検討していきます。こうした多様な展開を進めるためにも、新たな仲間参加をお待ちしています」(替地氏)

UF 商品研究会には近年、繊維・アパレル業界以外からも、ユニバーサルファッションに応用可能な工業デザインを得意とする企業などが参画しています。多彩な情報共有の中で知見を広げながらものづくりを進めていくために、これからも新たな会員を積極的に募集していきたいのだといいます。

「当研究会は、どなたでも参加可能な研究会です。繊維・アパレル業界以外の方でもユニバーサルファッションやユニバーサルデザインに興味のある方は大歓迎。少しでもご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください」(加藤)



「スパイラルインナー」の
身頃部分の型紙。



デザイン技術グループ
主任研究員

加藤 貴司

■ お問い合わせ

デザイン技術グループ〈本部〉

TEL 03-5530-2180

26 の技術研究会が課題解決や技術力向上を目的として自主的に活動しています。そのほか研究会の一覧は Web サイトをご覧ください。

<http://www.iri-tokyo.jp/site/jigyoku/kenkyuukai.html>

